

令和 5 年度 (えべつ地域創生の会)

報告書

1 調査年月日

令和 6 年 1 月 31 日 (水) ~ 2 月 2 日 (金)

2 調査項目及び調査地

【調査項目】

- 児童館こどもの城について

【調査地】

埼玉県上尾市

【調査項目】

- 鳥獣被害対策とジビエ加工センターについて

【調査地】

長野県長野市

【調査項目】

- 令和元年度台風 19 号からの復旧・復興策について

【調査項目】

長野県千曲市

3 議員名

岡 英彦

猪股 美香

鈴木 誠

本間 憲一

高柳 理紗

4 調査報告書 別紙添付のとおり



1. 児童館こどもの城の沿革

上尾市では、大規模な児童館を、JR の線路を挟んで東西に二つ運営している。一つは「児童館アッピーランド」として、平成12年から、もう一つは「児童館こどもの城」として、平成18年から事業を開始。いずれも利用対象を主に0歳から18歳までの児童と、児童の健全育成などを目的とする団体などとしている。多様な遊戯室を有し、広々とした体育遊戯室や音楽室、図工室などのほか、芝生が整備された屋外遊戯スペースを持つ。

2. 児童館こどもの城の組織と概要

児童館こどもの城は、第二・第四木曜日と年末年始を休館日とし、一般利用の開館は午前9時から午後6時までとしている。ただし、団体利用は午後10時まで可能であり、午後6時以降の利用は団体だけの利用、体育遊戯室、音楽室、会議室、多目的室のみを利用可能としている。利用料は基本的に無料だが、音楽室と体育遊戯室に限り、18歳以上の人への利用は有料としている。

概要是以下の通りである。

●施設の運営方法…指定管理

- ・組織体制…常勤職員6人、非常勤職員7人の計13人体制
- ・年間予算…6,104万円（委託費）

●来館者数 令和5年度上半期（4月～9月）で合計78,387人（延べ人数）

●利用対象 0歳から18歳までの児童と、児童の健全育成などを目的とする団体など

●使用料

- ・無料（18歳以上の人への利用は有料）

3. 利用者の現状

日中は乳幼児が、学校が終わってからは小学生が自転車でかけつける様子がみられ、音楽室や漫画室など、中学生以上の児童も楽しめるような施設もあるため、中高生の利用も一定程度ある。また、大型ショッピングセンターが隣接している立地のため、市外からの利用も多く、利用者全体の約37%を占めている。また、バラエティに富んだ事業を通年で開催しており、その数は年間で111種にも及ぶ。様々な対象年齢を想定した事業となっており、子どもたちが児童館に行く「目的づくり」に成功しているように感じた。いつ行っても、何か楽しいイベントを用意してくれている場所として、子どもたちのよりどころになっている。

公園とも隣接しているため、学齢期以降の体を大きく動かしたい児童のニーズ

も満たすことができる。

4. 江別市でのとりくみ

江別市においては、児童センターの利用は主に小学校の就学期児童を対象としており、そのほかの年齢の児童の利用は少ない現状がある。また、自主事業は月に1～2回程度で、魅力ある児童センターづくりにはまだまだ見直す余地があるように感じる。

また、児童館こどもの城でお話を伺った際に、コロナ禍での学校の臨時休校時の利用についても話題が上ったが、福祉部局の学童保育・児童館と、教育部局の学校との連携の難しさが挙げられていた。こども家庭庁の発足に伴い、あらゆる自治体が組織編制を検討しているところであるが、昨今の現状を考えると、学童保育や児童館を所管する部署のあり方について、十分に検討する必要があると考える。

1. 長野市ジビエ加工センターの事業概要及び設置までの経緯と目的等

- 事業概要：有害鳥獣として捕獲されたイノシシ(豚熱の影響により受入休止中)やシカの受入れ、加工。
- 設置までの経緯と目的：有害鳥獣防除対策(駆除・個体数調整)により捕獲された鳥獣は、希少な自然の恵みでありながら、運送や衛生管理の難しさなどからほとんどが地中埋設されている。また、埋設等の処理作業に要する労力が多大であることが影響し、実際の捕獲に躊躇してしまう状況にある。

このような状況の中、捕獲した個体を加工センターで受け入れることで、捕獲事業者の労力の負担軽減を図るとともに、地域資源“ジビエ”として有効活用を目指し、ひいては、野生鳥獣被害防除及び中山間地域の活性化につなげるため、平成31年2月に長野市中条地区にジビエ加工センターを整備し、同4月から運営を開始した。

2. 長野ジビエ加工センターの組織

- 施設の運営体制：長野市直営
 - ・組織体制…現在職員8名体制
- 施設運営日時
 - ・定休日なし

※夏季(8月10日～17日)、年末年始(12月29日～1月3日)は休館

 - ・午前8時から午後4時45分まで(団体受入は、午後1時30分まで)
- 構造：鉄筋造平屋建(約330m²)
- 総事業費：約3億5,400万円(内、国交付金：1億2,000万円)
- 主な施設整備：解体室、熟成室、処理室、冷凍室(スライサー、ミンチ、真空パック、金属探知機、放射能濃度測定システム、電解水生成装置、商品管理システム完備)
- 施設の特徴
 - ・衛生管理の充実(国産ジビエ認定及び信州産シカ肉処理施設認定取得)
 - ・食品管理システムによりトレーサビリティの確保

3. ジビエ販売までの歩み

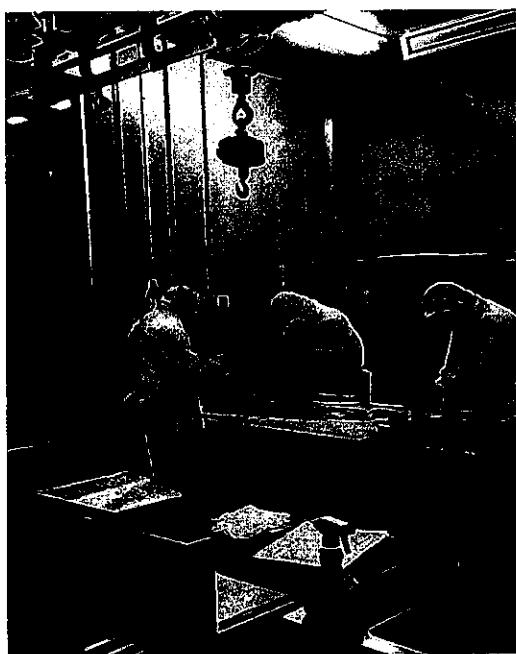
- 平成28年11月 長野市ジビエ振興計画策定
- 平成30年3月 農林水産省がジビエ利用モデルに選定
- 平成31年7月 ジビエ加工センター工事着手(平成28年2月建設地(長野市中条地区)に決定)

平成31年2月 ジビエ加工センター竣工(平成31年3月28日竣工式)
平成31年4月 ジビエ加工センター稼働(6月まで試験稼働、7月から本格稼働)
令和元年8月22日 「国産ジビエ認証」及び「信州産シカ肉処理施設認証」を取得
令和元年10月から 主に事業者向けに本格販売を開始(ペットフード用は令和元年7月から)

4. 所感

長野市ジビエ加工センターは、捕獲した有害鳥獣をジビエとして無駄なく有効活用して、農業被害を防ぐ目的及び、捕獲者の労力の負担軽減につなげ、中山間地の活性化を図るために平成31年2月に完成、4月から運営。現在は、豚熱(CSF)の影響でイノシシの受入が休止中であり、シカのみの受入れとなっている。運営では、捕獲者とのコミュニケーションや衛生管理面について大変に苦労をされており施設運営経費は毎年約2,600万円。学校給食への提供やペットフード加工等、可能性は広くあるが、市単独の経営・運営は厳しいと思われる。

ジビエ加工センター内加工作業風景



長野県千曲市

令和元年台風19号災害からの復旧・復興について

千曲市の概要

千曲市は、長野県の北信越地域に位置し、西は冠着山（姨捨山）、東は鏡台山をはじめとする山地に囲まれ、またそのほぼ中央を、東南から北東に大きく曲がりながら千曲川が流れています。千曲川をはさんで両岸には平坦部が広がり、北は善光寺平に接しています。

令和元年台風19号の概要

令和元年10月6日3時にマリアナ諸島の東海上で発生し、12日に日本に上陸し、静岡県、関東、甲信、新潟県、東北地方などで記録的な大雨となり、死者100人を超えるなど、甚大な被害をもたらしました。

令和元年台風19号豪雨水害への対応

令和元年台風19号豪雨水害では、信濃川水系の上流域を中心に記録的な豪雨となり、長野市穂保地先では堤防が決壊し、その他にも千曲川上流域から信濃川中流域の広域にわたって、堤防の越水氾濫や内水氾濫による家屋の浸水など、流域全域に甚大な被害が発生しました。この流域での甚大な被害を受け、信濃川水系では令和2年1月に「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」を策定し、国、県、市町村が連携して、流域一体となった防災・減災対策を推進しています。

埴生遊水地の整備内容について

埴生遊水地は、千曲市中地区にある霞堤内を事業地として、囲ぎょう堤となる千曲川の堤防と周囲堤により遊水地としての器を整備して、貯水容量を確保することとしました。また、囲ぎょう堤から洪水を取り込むための越流堤、貯水した洪水を排水するための樋門の整備を行っています。

数値解析と水理模型実験による検討

埴生遊水地の設計では、数値解析によって検討した目標とする効果が得られるかを検証し、さらに必要な改良を加えることを目的に、水理模型実験を行っています。

緊急治水対策プロジェクト（水位を下げるための対策）

洪水時の河川水位を低下させる取り組みとして、堤防整備・河道掘削による洪水流下断面の拡大とともに、洪水を一時的に貯水する遊水地の整備を行っています。

復旧事業（ソフト事業）について

住まい・暮らしへの支援として、被災者の生活再建のため、長野県が民間賃貸住宅を借上げ、提供され、また被災した住宅の居室、台所、トイレ等の日常生活に必要な最小限度の部分を、市が業者に依頼し、応急的に修理しました。

災害援助法に基づいては、災害により学用品を失った児童・生徒を対象に教科書や学用品なども支給されています。

復旧・復興に向けて

復興計画策定のための市民アンケートを行い、被災状況や避難状況、防災意識などを聞きし、復興計画に反映させ、その復興計画(案)に対する住民説明会も実施し、千曲市復興計画と千曲市復旧計画を策定した。

江別市として考えると

江別市としても石狩川を抱え、昭和56年8月の集中豪雨による洪水では市内各地に甚大な被害をもたらしましたが、近年は大雨などによる洪水や土砂災害といった水害が全国で多発しています。江別市が作成している「防災あんしんマップ」を活用しながら、日頃から準備と確認を行い、水害に対する対策を考えてまいりたいと思います。